

# PICK UP!

## 各種支援のご紹介

女性研究者がライフイベント（出産・育児・介護）と研究を両立させるための様々な支援を行っています。

大学コンソーシアム熊本加盟機関の研究者も利用できます。

### >>> 共同研究支援

熊本大学と大学コンソーシアム熊本加盟機関の女性研究者間の共同研究を推進するために研究費を支援しています。

### >>> 病児・病後児保育事業

子供が、病気や回復期の場合でも研究活動が中断や遅滞することなくスムーズに遂行されるよう支援します。

## REPORT

事業を活用して、研究とライフイベントのさらなる充実を図っています！

熊本大学大学院自然科学研究科 光増 加奈子 さん



この度の出産及び育児休業取得にあたり、昨年度から今年度にかけて、本事業による複数のご支援を頂きました。以前に比べて研究に従事する時間が限られた中でも、研究補助者の雇用支援を活用することで、滞りなく研究を進めることができました。また、論文の投稿料等や学会旅費の支援を受けられるということが、研究に対するモチベーションを上げることにもつながり、育児をしながらも積極的に研究活動に取り組むことができました。

### >>> 介護「なんでも相談室」開設

NPO 法人に委託し開催している介護「なんでも相談室」では、専門の相談員が介護全般にまつわる相談をお受けしています。介護問題に直面している方もこれからは備えておきたい方も、お気軽にご相談ください。相談は無料、秘密は厳守します。

次回開催日 無料

【開設時間】平成27年 3/11(水) 17時半～20時  
【場 所】地域医療連携センター相談室  
(熊本附属病院外来診療棟 1階)  
【相談専用電話】090-1260-4839  
(直通) (相談室開設時間のみ)

【開設時間】平成27年 3/17(金) 12時～17時  
【場 所】熊本大学共用会議室 C  
(黒髪南キャンパス 工学部 1号館 2階)  
【相談専用電話】096-342-3833  
(直通) (相談室開設時間のみ)



予約申込・問い合わせ ※予約の方優先です。

熊本大学「女性研究者研究活動支援事業（拠点型）」事務局  
【TEL・FAX】096-342-3976 【E-mail】kyoten@kumamoto-u.ac.jp

### 介護関係書籍の貸し出し 介護に関する書籍の貸出（学内向け）を行っています。

蔵書リスト、貸出方法等 詳細は、熊大ポータルに掲示板をご覧ください。  
なお、黒髪地区「介護なんでも相談室」開設時にも貸出し中です。



### その他、熊本大学で実施している事業

### >>> 女性研究者の研究再開支援

ライフイベントを乗り越え研究活動に復帰する際の学会参加旅費・論文校閲や掲載費を支援しています。

### >>> 研究補助者雇用事業

ライフイベントにより研究が中断・遅滞しないよう、研究補助者の雇用費用を支援しています。

熊本大学は“共に生きる環境づくり”に積極的に取り組んでいます。

熊本大学は、平成18年度から全学的な男女共同参画推進を図っています。この目的を達成するため、本学は、全職員、学生等の意識改革に努め、平成19年3月26日に策定した「熊本大学男女共同参画推進基本計画」(期間 10年)の実現に向け具体的な取り組みを推進しています。



編集・発行

熊本大学 男女共同参画推進室

「女性研究者研究活動支援事業（拠点型）」事務局  
TEL/FAX 096-342-3976  
URL <http://genderkyoten-ku.jp>

2015年2月1日現在  
熊本大学の女性教員比率（専任）は、16%です。



Choice is ours in every moment.



文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業（拠点型）」

# News Letter

冬号  
2015.02

ニュースレターは、ホームページでもご覧いただけます。URL <http://genderkyoten-ku.jp>

### ご挨拶

熊本大学 副学長（男女共同参画担当）／男女共同参画推進室長 山縣ゆり子

日頃より男女共同参画推進にご理解、ご協力をいただきありがとうございます。本学では文部科学省の「女性研究者支援モデル育成」事業（H.18～20年度）に採択され男女共同参画の組織的な取り組みを本格化し、その後、「女性研究者養成システム改革加速」事業（H.22～26年度）や「女性研究者研究活動支援事業（拠点型）」（H.25～27年度）の実施等で、全国的にも注目されているところです。本ニュースレターでは主に大学コンソーシアム熊本と連携して女性研究者支援活動の普及を行う拠点型の取り組みを紹介いたしますので、ご一読くださり、ご意見等いただけましたら幸いです。



## 女性の活躍で教育の現場が活性化 ～シンポジウム開催報告

女性研究者研究活動支援事業（拠点型）キックオフシンポジウム

平成26年2月20日

事業推進のために、有意義なキックオフとなりました！



本学が平成25年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業（拠点型）」に採択されたことを機に開催されました。谷口功学長の主催者挨拶の後、文部科学省人材政策推進室長 和田勝行氏のお話があり、大学コンソーシアム熊本を代表して 熊本県立大学長 古賀実氏のご挨拶、続いて情報・システム研究機構理事 郷通子氏の基調講演が行われました。さらに、山縣ゆり子副学長が熊本大学の取り組みについて報告。最後に、新しく始まった本事業の概要について、科学技術振興機構プログラム主管 山村康子氏が特別講演を行いました。参加者からは、女性研究者の現状が分かり、支援事業へ期待が高まったなどの声が聞かれ、今後の事業推進の足がかりとなるシンポジウムとなりました。

## 女性研究者活動支援事業（拠点型）シンポジウム 「女性の活躍とダイバーシティ」

平成26年12月4日

### PROGRAM

開会挨拶 谷口 功 熊本大学長  
来賓挨拶 沼田 勉 文部科学省人材政策推進室長補佐  
中山峰男 崇城大学長 大学コンソーシアム熊本代表理事  
特別講演&パネルディスカッション  
閉会挨拶 石原義光 熊本保健科学大学学長補佐  
大学コンソーシアム熊本 女性研究者支援WG座長

### 多様性が教育・研究現場の向上力を育む

熊本大学くすの木会館において、大学コンソーシアム熊本との共催で開催され、まず、海外で出産・育児をしながら研究活動を続けてきた立教大学の大山秀子氏、続いて熊本県の初代くまもとブランド推進課長としてくまモンのプロモーションに携わった宮尾千加子氏が特別講演を行いました。後半は、県内五つの大学のダイバーシティへの取り組みについてパネルディスカッションが行われました。



# 女性研究者研究活動支援事業(拠点型)シンポジウム

## 「女性の活躍とダイバーシティ」

### 【特別講演Ⅰ】

**大山 秀子氏** 立教大学理学部化学科教授

### 「キャリアとライフ ～ダイバーシティの視点から～」



日本人の女性は、大学以上の学位を持つ割合(61%)で、OECDの平均を大きく上回り、男性の56%をも上回っているにも関わらず就業率が低く研究者も少ない現状を示した上で、自らの海外での研究生活と現在に至るキャリアを紹介しながら柔軟な人生設計をすることの大切さを語られました。また、女性自身がアイデンティティを確立し、自分の可能性に挑戦すること、何よりも、細々とでも継続することで成果を得られるのだと力説されました。

日本人の女性は、大学以上の学位を持つ割合(61%)で、OECDの平均を大きく上回り、男性の56%をも上回っているにも関わらず就業率が低く研究者も少ない現状を示した上で、自らの海外での研究生活と現在に至るキャリアを紹介しながら柔軟な人生設計をすることの大切さを語られました。また、女性自身がアイデンティティを確立し、自分の可能性に挑戦すること、何よりも、細々とでも継続することで成果を得られるのだと力説されました。

### 【特別講演Ⅱ】

**宮尾 千加子氏** 熊本県商工観光労働部商工労働局長

### 「ダイバーシティが日本を救う！ ～多様な人材の活用を～」



熊本県における「大学等の進学率」は、女性の方が高いにも関わらず能力が十分に発揮されておらず、女性の登用が低い状況にあるデータ等を示しながら、人の考えや価値観は急には変わりにくいので、女性も男性も、上司も部下も、もっとコミュニケーションを図り、風通しの良い組織で、互いに理解する努力をすることが大切であること。また、トップの強いリーダーシップで、できることから具体的なアクションを起こし、継続していくことがダイバーシティを進める鍵になると強調されました。

熊本県における「大学等の進学率」は、女性の方が高いにも関わらず能力が十分に発揮されておらず、女性の登用が低い状況にあるデータ等を示しながら、人の考えや価値観は急には変わりにくいので、女性も男性も、上司も部下も、もっとコミュニケーションを図り、風通しの良い組織で、互いに理解する努力をすることが大切であること。また、トップの強いリーダーシップで、できることから具体的なアクションを起こし、継続していくことがダイバーシティを進める鍵になると強調されました。

### パネルディスカッションテーマ

## 「大学における ダイバーシティを考える」



### 障がいのある学生にも対応を充実

熊本学園大学 幸田 亮一 学長



本学には社会福祉学科があることから、早くから障がいのある学生を受け入れており、車イス使用の学生受け入れに伴い、施設は全てバリアフリーである。4年前に全盲の学生が入学したが、講義前に点字訳した資料を渡す、サポート学生がつく等のサポートを行い、普通の学生生活を送れることが実証されただけでなく、国際柔道大会でメダル獲得等、活躍している。また、職員における女性比率も高く、事務局長を含め課長以上の女性管理職が5名(女性比率25%)で、今後は管理職も大半が女性になっていく見込みで女性の活躍が著しい。

### 学生の多様性が教育者の質もアップ

熊本保健科学大学 小野 友道 学長



本学は副学長が女性、学科長とリハビリ(言語聴覚)専攻長も女性のほか、事務職でも女性課長が誕生する等女性がかかり活躍している。現在、医学検査学科にほとんど耳の聞こえない学生が在籍中である。受け入れの際、大いに議論して障がいを持つ学生を受け入れたのだが、しゃべり方が良くなる・板書がきれいになる等、教員の講義の質が相当上がったほか、学生によるノートテイクなどいろいろな協力体制も整い、障がい学生を受け入れることにより、大学が得るのが大きいと実感し、ダイバーシティはいいなと思っている。余談だが男女共同参画の視点から、くまモンにそろそろ妹がほしい。

### 女性研究者の増員と国際交流の活発化を図る

崇城大学 中山 峰男 学長



本学の理事9人のうち2人が女性である。また、毎年女子学生が増加し、1200名を超えて(約35%)いるので、それに合わせて女性教員を増やそうとしているが、女性の応募が全体の1割以下と少ないので、まずは女性研究者を増やすことが喫緊の課題である。また、世界の中で力が発揮できる人材を育成しようと、海外の大学への留学を推奨している。一方、学生が自発的に作った「グローバルコミュニケーション」というクラブで、留学生と交流する環境ができていながら、留学生を現在の2倍の300人に増やすことを目標に受入れを行っている。

### 学生の気持ちを量る能力に長けた女性研究者

東海大学 九州キャンパス 中嶋 卓雄 学長補佐



望星丸という船で「海外研修航海」を約1か月かけて実施しているが、男女学生比率と比べて女子学生の割合が比較的高い。学部の垣根を超えて交流し、国際感覚を磨き、コミュニケーション能力を高めるという良い効果が出ている。今のポジション(学長補佐)になって3年目だが、毎年、女性研究者を採用している。3年連続で、相当数の女性の応募があり、講義のプレゼンテーションも非常に上手で、学生の気持ちを分かろうとする能力については男性より優れていると感じている。

### 海外留学者数を10年後には3倍以上に

熊本大学 山縣 ゆり子 副学長



スーパーグローバル大学の指定を受け、本学では外国留学経験者数を現在の学部学生2%・院生26%を、10年後には其々6%と81%に増やす計画である。男女共同参画を推進するというのはダイバーシティ実現の一つで、環境整備として学内に保育園を作り、子育て中の教職員の短時間勤務や研究補助員の採用、病児保育等の支援等を実施している。また文部科学省の「女性研究者養成システム改革加速」事業で行った自然科学系の女性研究者限定公募で5年間に13人が採用され評判が良いので、来年度以降引き続き、この事業を全学展開する予定である。

パネルディスカッションでは、女性の研究者・職員の積極的採用・上級職への登用等、女性の活躍の場が増え、多様化が進むことにより、男性にとっても働きやすく、大学の活性化につながるとの認識が共有されました。

参加後のアンケートには、「仕事と生活を両立させながら歩んでこられた両講師の思いをうかがうことができ、大変元気をいただいた」「若い女性がたくさん参加しておられたが、このことが重要。早い時期からこのような講演に参加し、進路選択に生かしてほしい」「特に、指導的立場にある男性職員の意識改革が必要だと思った」等、関心の高さがうかがえる多数の意見が寄せられました。



### シンポジウムの開催にあたって



### 女性研究者支援ワーキンググループ会議



県内11大学の代表者17人からなる女性研究者支援ワーキンググループ(WG)が拠点型事業の企画・実施を担っています。シンポジウムのテーマや講師の選定もWG会議で検討、当日はフロアから意見発表しました。

### 第1回 女性研究者交流会



シンポジウムに先立ち、講師の大山秀子氏を囲んで「女性研究者交流会」を開催しました。海外で出産・育児をしながら研究を続けてきた経験談を語っていただき、参加者と質疑応答、活発な意見交換が行われました。